

# あきる野9条の会 3周年 学習会 「田中正造と憲法九条」

プログラム（午後一時三〇分～四時の予定）

- 1 開会挨拶
- 2 日本国憲法「群読」：あじさいの会
- 3 講演「田中正造と憲法九条」  
講師 梅田欽治先生（宇都宮大学名誉教授）
- 4 質疑応答
- 5 閉会に当たって

二〇〇八年五月三十一日 あきる野市中央公民館

\*あきる野九条の会学習会、二〇〇八・五・三一、あきる野市中央公民館\*

## 田中正造の平和思想と日本国憲法九条

梅田 欽治

### (1) 田中正造と足尾鉍毒

- ①田中正造の体験（一八四一・天保一二年―一九一三・大正二年）
- 体制的危機の天保期、一七歳で名主、六角家改革運動で入獄。
  - 江刺県下級官吏、冤罪で入獄・拷問、廃藩置県後に郷里に帰る。
  - 自由民権・国会開設運動に参加、明治一三年に栃木県会議員。
  - 一八八五（明治一八）年に足尾鉍毒広がる、一八九〇年に衆議院議員に当選、四九歳。

### ②田中正造の足尾鉍毒とのたたかい

- 第二回議會（一八九一年）ではじめて足尾鉍毒につき質問書提出。
- 被害民の「押し出し」、鉍毒地巡回「鉍毒非命死者の説話」、川俣事件。
- 「亡国ニ至ルヲシラザレバ之レ即チ亡国：民ヲ殺スハ国家ヲ殺スナリ」  
（「質問書」一九〇〇年二月一七日）全集八巻
- 衆議院議員辞職、明治天皇に直訴（一九〇一年）。
- 北川辺、利島のたたかい、谷中村問題に専念（一九〇四年、日露戦争はじまる）。
- 足尾銅山労働争議、暴動になる（一九〇七年）、谷中村強制破壊。
- 「真ノ文明は山を荒さず、川を荒さず、村を破らず、人を殺さざるべし」  
（「日記」一九一二年六月一七日）全集一三巻

### ③ 田中正造の信念と生き方

- ・「他の新主義ありて革正の至るハ別段として、今日ハ今日、未来ハ未来、先ツ今日ハ今日ニテ足ラシメントス」

（「書簡・木下尚江宛」一九一三年三月一日）全集一九卷

### (2) 田中正造の平和思想とその行動

#### ① 日清戦争のときの田中正造

田中正造は、日本の出兵は朝鮮を清国から自立させるためとみて明確な態度をとれなかった。しかし日本が朝鮮を支配することには反対であった。

- ・「……姑息平和を止め、朝鮮取るべからず、又永く世話するの義あり」

（「日記」一八九四年八月）全集九卷

田中正造は、日清戦争後であるが、東学党について積極的な評価を「朝鮮雜記」というノートに書き残している。

- ・「東学党ハ文明的、十二ヶ条ノ軍律タル徳義ヲ守ルこと厳ナリ。人民の財ヲ奪ハズ、婦女ヲ辱カシメズ……軍律ヲ犯スモノアレバ直ニ銃殺ス」

（「政論」一八九六年四月）全集二卷

#### ② 日露戦争と「無戦主義」

##### 1 民衆の視座

田中正造の平和思想は日露戦争のときに確立した。それは鉱毒被害に苦しむ民衆の立場にたって生まれ発展した。ここに平和思想の特質がある。

- ・「鉱毒問題ハ対露問題の先決問題なり。鉱毒問題を後チニして戦ハゞ失敗す。理相（理想）ハ非戦ナリ」（「日記」一九〇三年一〇月）全集一〇卷
- ・「谷中問題ハ日露問題より大問題なり」（「書簡」一九〇四年九月六日）全集一六卷

##### 2 「無戦主義」の核心は「世界各国皆海陸軍全廃」

- ・「畢竟小生の主義は無戦論にて、世界各国皆海陸軍全敗（廢）を希望……人類は平和の戦争コソ常に憤闘すべきもの。もし之を怠り、もしくは油断せば、終に殺伐戦争ニ至るものならん」（「書簡」一九〇四年九月九日）全集一六卷
- ・「道に二途あり。殺伐を以てせるを野獣の戦とし、天理を以てせるを人類とす。……野獣言語少し。意思の通ぜざるより腕力に是非を決す。人は人語を解せり。人語の人類として何を苦んで腕力を以てせるものなるか」

（「日記」一九一一年）全集一二卷

##### 3 「一戸に二様の非命の死」〜「鉱毒問題」と「平和思想」の一体化

- ・「戦争ノ罪惡ハ論を要せず……長次男ハ戦争場ニ敵ニ殺され、其父母ハ我崇敬する政府の毒手ニ殺さるゝとせば、之れ一戸中内外二様ニ死者を生ずるなり」

（「書簡」一九〇四年一月二六日）全集一六卷

##### 4 小国主義〜大日本主義に反対

- ・「我国講和ヲ希望セバ宜敷先ツ大国民ブルコトヲ止ムルニアリ。矢張小国ハ

### ③ 田中正造の「無戦主義」の行動

#### 1 演説会の活動

- 一九〇三年二月、静岡県掛川町外一郡中有志に「非戦論」
  - 一九〇四年一二月、宇都宮市馬場町・寿座で「平和の戦争と殺伐戦争」
  - 一九〇八年五月、神田青年会館で早大雄弁会「谷中及軍備停止論」
- このように、各地で演説、「谷中及軍備全廃」という演説テーマに示されているように、鉅毒問題と「無戦主義」は一体化している。

#### 2 ハーグ万国平和会議に向けて行動

##### \* 田中正造は万国平和会議に軍備全廃を提案しようとする行動

万国平和会議開催を知り、強い関心と期待をもつて行動した。田中正造が住み着いてたかっていた谷中村では家屋の強制破壊という時期。

- 第二回万国平和会議Ⅱオランダ・ハーグで、一九〇七年六月一〇月、開催。ロシア皇帝ニコライ二世の呼びかけ、四四カ国が参加。

(第一回は一八九九年に開かれ、一九〇四年には日露戦争)

- 国際紛争平和的処理条約・国際仲裁裁判所設置、陸戦法規慣例ニ関スル条約、開戦ニ関スル条約。
- 韓国皇帝高宗の密使・日韓条約無効の訴え↓門前払い、伊藤博文韓国統監が高宗の責任追及、退位させる。↓「韓国併合」Ⅱ韓国を植民地化。

(一九一四年には第一次世界大戦)

- 「：海牙(ハーグ)の万国平和会議のことを聞いたので、足の抜き難い所でしたが、谷中を出て東京へ来ました。此の大勝利と云ふ好機会に乗じて、日本が世界の前に素裸になる、海陸軍の全廃、是れが弱小国の口から出るのでは、折角の軍備全廃論も力が無いが、大戦勝の日本は軍備全廃を主唱する責任がある、否や、権利がある。：：」

- 「：若し万国平和会議で、日本の主張を拒絶して、軍備全廃を否決したならば、日本は自分だけで海陸軍を撤去しなけりやならないと云ふのですが、「勝つて胃の緒を締めよ」と云ふことを、世間で一概に軍備を拡張することだと思ふのは、大変な誤解で、軍備全廃と云ふのが、ほんとの「勝つて胃の緒を締める」だと云ふことに何人も気が付かない。：：」

- 「：軍艦など、支那に呉れてしまへ、露西亜に呉れてしまへ、残りがあつたら皆んな焼いてしまへ、丸裸になって、さあ来いと言ふんだ、此の正直な力、何処から攻めるものが出来るのですか、一神の道だね」

(「時論」一九〇八年、明治四一年四月五日) 全集四卷

##### \* 田中正造はブース大将に面会

- 救世軍創設者の、英国のブース大将が一九〇七年四月、来日。
- 田中正造は東京まで出かけて歓迎会に出席し、ブース大将に面会、平和会議で日本代表の世界軍備全廃の提案に英国も賛成するよう伝えようとした。し

